

十勝組 第9期

連研通信

十勝組 研修部

二〇一二年五月二六日、本願寺帯広

別院にて、第十一回連研が開催されました。七カ寺から十四名の参加でした。



参加者もスタッフも少なめでしたが、新たなスタッフが二名加わりました。

開会式では『重誓偈』をいただきました。小澤知史さん(帯広・勝興寺)が調声をつとめました。



おつとめ・作法担当は、頼田光明さん(広尾・光音寺)。「らいはいのうた」(『十二礼』の意訳)を、意味から、

拍・調子・念仏・和讃の説明と、通してい



いただきました。

話し合い法座のテーマは「迷信・習俗」。担当した脇谷さんの「まとめ」をどうぞ。

第十一回「迷信・俗信」についての話し合い法座はいかがだったでしょうか？

班発表にも「信じていないけど避けて通る」「周りに逆らってまでも押し通せない」などの声が聞かれました。迷信は、習俗(土地や地域の風習やならわし)から決められた俗信の中で、特に人間関係や私自身において、良く解らないものに縛られ害されないものを示します。不合理(それは変なこと)だと考えながらも、周囲の目や私自身の体裁のために止めることができないもの、それに逆らうことで変わり者に見られたくない意識があります。それは同様に、私自身もその事に縛られ、そういう目で迷信に惑わ

されず正しい行いをする人を、変人や気味の悪い人のように見ていくことになるのです。迷信は、根拠のないこと、良く解らないことに振り回されていくという意味では「神の問題」と重なりますし、道理にかなって正しい行いの人を地域から弾き出してしまいう意味では「差別の問題」とも重なるほど、私たち自身の心の中に知らず知らずのうちに巣くっていることになりました。自然とむしばまれていくにもかかわらず、私だけは大丈夫と言って、迷信そのものを認めてしまうことになりかねません。

これは、「昔から代々言ってきたこと」でもなければ、「皆が言うから逆らわずとも」と妥協して生きることでもありません。

昔からという昔はいつからでしょうか？皆が言うという皆とは誰のことでしょうか？そこを正確に考え抜いたり、見ぬくことをしないまま、次第に思わされているところ。大きな問題があります。そして、私自身の悲しみや苦しみに向き合う姿勢を、あるいは私一人の人生を私自身の責任として引き受けてい





く心を、いつのまにか削ぎ落としてしまうことになりす。

親鸞聖人があきらかにされた念仏の教えを聞かして頂きながらも、私自身の本当の自身が見えてこないあり方を「悲しいことです」と示して下さっています。そ

の私の抱えた闇を打ち破って下さり、迷信に振り回されることなく、正しい教え(正信)をよりどころに責任を持って生きていく道こそ、恐れや不安、穢れなどのこだわりから解き放たれていく人生となります。

※ひとこと感想を紹介します。

「色んな話が出ました。

迷信は知らず知らずやっている。迷信の事を

皆さん笑いながら話されていたので良かったです」「迷信という事は

はつきり知らないでい

ましたが、今も理解はできませんした



が、私自身が勝手な思いで物事を決めていたことがわかりました。迷信にこだわらず、難しいですが勉強になりました。ありがとうございます。ご



どもの頃より聞かされてきたので、何気なく思っていました。迷信に對する正信ということをお話頂いて、とらわれないで生きていくことを、よろこびとして確信しました」「迷信について、日常的にふかく考えた事はないが、悪い迷信は気

談・話題が毎回かわることに興味を持っています」「私は迷信はあまり気にしません。道理に合わない事に惑わされたくないと思います。理解できないことがいっぱいあります」「色々知らない事、わかって良かったです。阿弥陀の話も教えて頂いてありがとうございます。今日の話も大変良く解りました」「今日の話も大変良く解りました。私たちが話し合いをするのが段々慣れてきたのではないかな」「今日の話し合い法座の迷信・靈魂については、子

になるが信じないようにしている」「迷信とは何か? ってまた信じるか? の問いに、私の場合は昔の風習に流されきた場面がたくさんありました。今では信じていません。でも考えてしまうこともあります。今日の話し合いはとても楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございます」

〈了〉

